



第2回 淡海の川づくりフォーラム 公開選考会 記録集



淡海の川づくりフォーラム実行委員会 事務局

1. 淡海の川づくりフォーラムとは??

淡海の川づくりフォーラムでは、“川と共生する暮らし”、“川と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

日時 2009年3月29日(日) 9:30~16:30

場所 コラボしが21 3階

内容 テーブル選考、復活選考、全体討論

テーブル選考(午前)

参加団体が3つのグループに分かれて発表します。

選考員の推薦により全体討論へ



全体討論(午後)

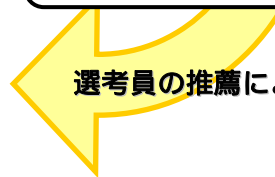
テーブル選考、復活選考を経て、推薦された“きらり”と光る活動を見ながら、“川と私たちの関係”について議論を深めていきます。

テーブル選考で十分にアピールできなくても、“きらり”と光る活動には・・・

復活選考(昼)

テーブル選考で見つけられなかった大切な活動を全体討論に推薦します。

選考員の推薦により全体討論へ



2.第2回 淡海の川づくりフォーラムの開催概要

第2回 淡海の川づくりフォーラムプログラム概要

● 3月29日(日)会場：コラボしが21

9:30~10:00 開会、ガイダンス
大会議室で開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します

10:00~11:30 テーブル選考発表
選考員が中心となって議論を深め、全体討論に進むきらりとひかる活動を選びます。(テーブルごとに2団体)
テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。

12:00~12:45 復活選考
時間内で自由に選考員に活動内容をアピール
復活選考から全体討論に進めるのは1団体程度

13:00~16:00 全体討論
発表時間5分で選考員に活動内容をアピール
全団体発表後、選考員が全体討論の講評を含めて「川と私たちのいい関係づくり」について、発表された活動を見ながら、選考員を中心に参加者全員でさらに議論を深めていきます。

16:00~16:30 結果発表・表彰
全体討論の結果を発表
グランプリ等の表彰
参加団体全ての中から河港協会賞の表彰

入賞と賞名一覧

グランプリ

● うきた会

「宇伎多神社の水の神様も喜ぶで賞」

● カワセミ自然の会

「人が好き、生き物が好き、みんな大好きで賞」

準グランプリ

● ホタルの学校～大津市千丈川～

「やさしい笑顔で蛍も人も大事にしま賞」

河港協会賞

● 犬上川を豊かにする会

● 竜王町日野川改修促進協議会

3.応募一覧(全19件)

団体名		代表者	発表者
テーブルA			
1	野洲市里川づくり委員会	北出肇	北出肇・中村紀一郎・森田貞雄・山本義昭
2	防災エキスパート	杉本良作	杉本良作
3	おおつ環境フォーラム； 子どもが遊べる川づくりプロジェクト	本多登美子	奥井貞夫・中西逸朗・佐橋保司・山岡剛・田中祐樹・本多登美子
4	琵琶湖河川レンジャー	木村絵美	新玉拓也
5	竜王町日野川改修促進協議会	片岡津留夫	佐橋定雄・川嶋哲也・若井幸雄
6	NPO 法人 蒲生野考現倶楽部	森田英二	齒黒恵子・井阪尚司
テーブルB			
7	カワセミ自然の会	橋詰幸樹	橋詰幸樹・その他
8	NPO 法人瀬田川リバブレ隊	富岡親憲	朝田雅夫・美濃部進・富岡親憲
9	うきた会	奥谷繁和	武内博・奥谷繁和・平井良一・岡島宇平・勝田正次・霜降利男・熊谷甚一・奥谷義行
10	住民会議作業部会 + ボランティア	柴田善秀	北井香・正村圭史郎・瀧健太郎
11	犬上川を豊かにする会	倉茂好匡	松尾則長・佐々木和之
12	NPO 法人いきいきおうみ プロジェクトB(防災)	広田正和	広田正和・高居芳美・高田幹雄 河居郁夫・木田清孝・北村浩子
テーブルC			
13	琵琶湖博物館はしかけグループ 「びわたん」	北村美香	森永紗江子
14	NPO 法人 E n	高田拓朗	前田晴美
15	野洲川に親しむ会	谷弥一郎	宮原信義・木本定利・上野雅代
16	河川レンジャー	平山奈央子	木村絵美・越路百合子・新玉拓也・高田拓朗・近成英樹・原田優美
17	ホタルの学校～大津市千丈川～	荒井紀子	荒井紀子
18	びわこ自然環境ネットワーク	寺川庄蔵	奥敬一
19	東近江建設管理部	堀井孝郎	渡邊康治・井関明子
計		【参加 19 団体】/発表 19 団体	

選考結果一覧

テーブルA

No.	水辺の名称	所 属	テーブル 選考	復活選考	結果
1	大山川、中ノ池川 自治会内の川、家棟川 野洲川、あやめ浜	野洲市里川づくり委員会			
2	大戸川、支川隼人川等	防災エキスパート			
3	三田川、真野川 柳川、安曇川上流 相模川、吾妻川、藤尾川等	おおつ環境フォーラム； 子どもが遊べる川づくりプロジ ェクト			
4	琵琶湖および周辺河川	琵琶湖河川レンジャー			
5	日野川	竜王町日野川改修促進協議会	通過		河港総賞
6	佐久良川	NPO 法人 蒲生野考現倶楽部	通過		

テーブルB

No.	水辺の名称	所 属	テーブル 選考	復活選考	結果
7	真野川など 湖西を流れる川	カワセミ自然の会		復活	グランプリ
8		NPO 法人瀬田川リバブレ隊			
9	八田川	うきた会	通過		グランプリ
10	琵琶湖流域	住民会議作業部会 + ボランティア		復活	
11	犬上川	犬上川を豊かにする会			河港総賞
12	天野川	特定非営利活動法人いきいきお うみ プロジェクトB（防災）	通過		

テーブルC

No.	水辺の名称	所 属	テーブル 選考	復活選考	結果
13	琵琶湖および流域河川	琵琶湖博物館はしかけグループ 「びわたん」			
14	宇治川	NPO 法人E n	通過		
15	野洲川	野洲川に親しむ会			
16	野洲川、瀬田川、 草津川など	河川レンジャー			
17	千丈川	ホテルの学校 ～大津市千丈川～		復活	準グランプリ
18	琵琶湖岸、喜撰川 大道川	びわ湖自然環境ネットワーク	通過		
19	日野川	東近江建設管理部			

4.大会ダイジェスト

3月29日(日) 会場：コラボしが21

● テーブル選考 テーブルA～C

滋賀県内から応募によって集まった19団体が、それぞれの発表内容から大まかなテーマごとに3グループ(1グループごと6～7件の発表)に分かれてテーブル選考が行われました。発表時間は1団体あたり5分、質疑応答分として、テーブルコーディネーターの進行により約1時間30分かけて各グループで熱いアピール大会が行われました。熱気に満ちたアピールの結果、各グループから2団体ずつ全体討論に推薦されました。



テーブルA



テーブルB



テーブルC

● 復活選考

午前中のテーブル選考で惜しくも全体討論への推薦を逃した団体が、もう一度全体討論への出場を目指して復活選考に望みました。メイン会場に一同に集まり、自作のパネルを用いてアピールを繰り返す様子は圧巻です！選考委員も選考に熱が入り、発表者と熱心に「いい川、いい地域づくり」について議論されていました。



● 全体討論

午後は、参加者全員がメイン会場にて、全体討論に臨みました。テーブル選考と復活選考を経て、全体討論には9団体が出場しました。さすが、全体討論へのから推薦を得た団体のアピールはどれも内容の濃いものばかり。選考委員のみなさんも選考に頭を悩ませていました。

各団体の発表後は、会場全体でアピール内容について議論を行いました。活発な意見交換により、参加者同士の交流が深まり情報交換も行われました。



全体討論

総合コーディネーター：片寄俊秀さん
コメンテーター：嘉田由紀子さん
全体選考員：横山葵さん、山道省三さん、川上聰さん、小坂育子さん

<推薦> 竜王町日野川改修促進協議会
<推薦> NPO 法人 蒲生野考現倶楽部
【復活】カワセミ自然の会
<推薦> うきた会
【復活】住民会議作業部会 + ボランティア
<推薦> 特定非営利活動法人いきいきおうみプロジェクト B (防災)
<推薦> NPO 法人 En
【復活】ホテルの学校 ~ 大津市千丈川 ~
<推薦> びわ湖自然環境ネットワーク

(注：<推薦> はテーブル選考で推薦された団体、【復活】は復活選考で推薦された団体)

片寄さん：全体討論に残された団体から、今回最も印象に残った活動を見つけていきましょう。うきた会の八田川、いきいきおうみ、ここが拮抗するのですね。あとは、En。「En (イー・エヌ)」って意味は何でしたか？

NPO 法人 En (えん)：エンです。円周率の En。

片寄さん：やっぱりここは文学の国ですね。源氏物語を生んだ国ですからね。ここからは復活で全体討論に進んだ、カワセミ。そしてホテルの学校と続きます。一人何票ずつ投票しましょうか。3票ずついきましょうか、2票ずついきましょうか。1票でもいい。これというのは1つしかないですよ。
どないしよう。

事務局：1から3で。

片寄さん：それはあんまり良くないですね……。ああ、そうか。それも良いですね。1～3票で投票する。半分にする。はい、そしたら3票ずつですね。今から審査員が3票ずつ入れます。委員長はやめておこう(笑)。

事務局：最後にグランプリを決めるときにはお願いします。

片寄さん：よし、それなら4人の方に3票ずつしましょう。**誰がどんな理由でどれをいち押しにするのか**注目です。選考員のみなさん、まだ琵琶湖

の水も冷たいですよ(笑)。はい、お願いします。

事務局：先生！1人が同じ団体に3票というのはちょっと・・・。

片寄さん：そうや、そうや。1人が同じ団体に複数票を投票してはダメです。まずは第1次ということで。

(投票)

片寄さん：事務局で投票数を数えてもらえますか。この選考方法はおもしろいですね。やっぱり選考員がどんな人かが見えるという形式は珍しいですね。

(集計中)

片寄さん：結果が出ました。「カワセミ自然の会」が3票、「うきた会」が3票、「住民会議」が1票、「いきいきおうみ」が1票、「En」が2票、「ホテルの学校」が2票という6つ全部の団体に票が入りました。穏やかに進んでいますね。

しかしここからどんな逆転劇が起こるか。これから1人ずつ今までの感想を含めて語っていただいて、そして再度投票といきましょう。それでは、テーブルAの選考委員から一言ずつお願いします。

横山さん：テーブルAの横山です。実質の第1回大会にふさわしく、すごくいろんな角度でいろんな種類の活動を拝見したなと思っています。それぞれのプレゼンテーションもすごく力が入っていたり、とうとうと語っていたり、いろんなタイプの発表が見られました。本当に一つ一つはすごく素晴らしいのですが、何かを基準にして選ぶしか仕方ありません。ですから、基準軸をどこに置くかによって選考理由が変わってくるのではないかなと私は感じています。

そこで今回の基準軸は、地域といかに密着しているかという、その点だけに絞りました。本当は多岐にわたる活動を行っている団体もありました。それは評価に値します。それに、これから大事だなというような活動を行っている団体、ここにも本当は票を投じたいという感じだったので、私はいろんな軸がある中で、この軸を選びました。

それでやはり、「うきた会」の長い間、何百年と伝わっている地域の水との関わりが素晴らしかったので、そこに1票を投票しました。あと、真野川をさかのぼろうという活動ですが、いちばん最初にご夫婦お2人

で始めたという点がやはり良くて、それで楽しく気軽にやれるということが本当に浸透していくミソだと感じましたので、カワセミ自然の会にも投票しました。

さらに、「**ホタルの気持ちでホタルを 20 年見続けています**」という荒井さんの**一言に惚れ込み**まして、やっぱりこういう人がいるから本当に川との良い関わりができるんだなと実感しましたので、ホタルの学校に投票しました。ありがとうございました。

(拍手)

山道さん：私が投票した3票は、うきた会、住民会議作業部会 + ボランティア、いきいきおうみプロジェクト、この3つです。理由は、**防災の話を自主的に地域が行う**という点はとても大事であり、まさに今、本当に我々が考えなければならないことだと思っています。最低限自分の命は自分で守るということなのだと思いますが、僕は**環境回復だとか、いい川づくりとか、多自然川づくりそのものも、地域の人たちが川に目を向ける手段**だと思っています。そこでやはり地域の人とその地域の川の事情、水の出方、減り方、これらを**よく知った上で川と共に生きるということが大事**で、これはもうまさに防災とか治水とか、そういうことだと思います。

ただ、いずれも眺めがいいとか蝶よ花よの世界ではなく、防災を入り口にして川を知るといことだろうと思います。そう考えると、うきた会の活動は、自分たちでかつてのその地域の川に合った治水と、あるいは自主的な防災の仕掛けを本当にやっておられる。そして、ほとんどご高齢の方ばかりで先がないから必死なのだろうという思いも伝わってくるんですね。その**必死さ加減にエール**を送って、**ぜひ若い人たちにもそれを継承していただきたい**という意味であります。

それからもう一つのいきいきおうみは、かつての防災やコミュニティーの仕組みを、**新しい意味での防災に区分けした地域コミュニティー**を作っていこうという方向にシフトされていて、このアイデアはとてもいいと思います。ただ芽が出たばかりなので、隣組という単位のコミュニティーを新しい快適な町づくりや地域の安全といったように、少し近代的な発想をしていただけるともう一つランクの上がる活動ができるのではないかと思います。これも応援というかエールで思うわけです。

それに加えて先ほどの県の住民会議の報告は、まさにそういった**防災における近代的な発想を実際行っていく団体を応援**するための計画

だろうと僕は思います。この3つで素晴らしい淡海の川づくりができていくのかなという意味も含めまして、推薦しました。

川上さん：テーブルCの川上です。私はEnの活動に票を入れました。この水害のカルタづくりというのは、この地域だけでなくどこの地域にも使える手法であるという普遍性に着眼して投票しました。

それから真野川をさかのぼろうのカワセミ自然の会に、先ほど活動に至った経緯でお話がありましたが、きちんと原体験を重視した純粋で単純で明るい活動です。こういう活動も各地で行っていただきたいと思います。子供たちも恐らく10歳ぐらいまでの間に思い切り自然に触れていないと、まともな大人にならないんじゃないかと私は日ごろから思っています。あまりいろいろと細工せず、こういうストレートに川で楽しむ手法というのは、川で行う活動の基本的なスタイルではないかという点で、評価しました。

3つ目はホタルの学校です。ごく普通のご婦人が、ホタルが大事だ大事だと思って始めた活動です。水利組合が要望した河川改修にぶつかって、そして「ホタルが大事か、人間が大事か」という非常に厳しい命題を突きつけられて、しかしホタルも人間も大事だというところまで、その水利組合や河川管理者を歩み寄らせて、そして河川改修後にホタルを取り戻したという実に粘り強い活動です。最初はどなり込んだとおっしゃっていましたが、だんだんとソフトになっていって周囲を納得させていった。そういうプロセスを体験され学習されて現代に至っている、これも非常に貴重な1つの川で行う活動の手本ではないかと思って投票しました。

小坂さん：まず投票した団体は「うきた会」です。連綿と受け継がれた生活文化の中にその活動が組み込まれているという点で、地に足をつけた安心とこれからも続けてほしいという期待がありました。

そしてもう一つは、NPO法人Enです。この団体が作ったカルタは、私たちの発想ではなかなか出てこなかった。若い人ならではの発想から、うまく子供たちと体験者の世代をつないでくれたという点で良いと思います。このカルタの利活用をこの先どうしていくのかという点にも期待しています。

それから、「カワセミ自然の会」の真野川をさかのぼろうという活動は、子供たちにとって川って一体どんなものかな、ということを川をさかのぼりながらイメージし、イメージしながらこんな川だったらいいなというふ

うに**子供たちが一人一人感じる活動**だと思います。多分、絵でかいたら川なんて水色でざあっと塗りつぶされた1本の線になってしまいますけれども、今日発表を聞いていたら、それぞれ川の個性というのか、特長があるということもわかりました。川の立場になれば、「おお、みんなよわしのことを思ってくれているな」というような気持ちにもなったと思いますし、私自身もさらに川に近づいた感じもしました。

そういう意味で何か今日のこの発表はすごかったなと感じました。全体の私の感じたことからこんなふうに結果を選ばせていただきました。(拍手)

片寄さん：それでは、どうしましょうか。**グランプリは1つにせないかなのかな?!**。カワセミ自然の会とうきた会で1つにならへんかな。グランプリと準グランプリ、もう1位と2位は決まりましたね。そんな感じでどうですか、皆さん。カワセミ自然の会とうきた会で。それでホタルの学校がぐっと浮上してきましたね。**おっ！知事裁定**が出ました。グランプリは2つでもいいと。

それで準グランプリを1つということで、今の2つ、「カワセミ自然の会」と「うきた会」が、同列でグランプリということになります。そして、準グランプリに「ホタルの学校」の千丈川ということになります。この結果について、「絶対嫌だ！」という人だけ手を挙げてください(笑)。

よろしいですか。それでは、これにて選考結果は決まりました。(拍手) グランプリは「カワセミ自然の会」、同じくグランプリに「うきた会」。そして、準グランプリは「ホタルの学校」。おめでとうございます。(拍手)

あと、河港協会はどうしましょうか。全体討論に推薦された団体に限らず、全団体を含めて選考しましょうか。いや、この選考は中谷河港課長に全部お任せします。以上で全体選考会を締めましょう。

みなさん、ご協力どうもありがとうございました。(拍手)

表彰式

...表彰式では、グランプリ・準グランプリの他、全体討論の発表団体以外にもきらりと光る活動をアピールしてくれた団体に対して、河港協会賞(いい川づくり賞)が選ばれました。

片寄総合コーディネーターからの全体講評の後、コメンテーターである嘉田由紀子知事からの挨拶で熱い一日が無事に閉会となりました。



表彰式

グランプリ 「うきた会」

賞状、グランプリ、「**宇伎多神社の水の神様も喜ぶで賞**」。うきた会様。あなたは第2回淡海の川づくりフォーラムにおいて、川と私たちの共生、川と私たちのいい関係を目指す仲間たちのモデルとなる活動を発表されました。その熱意と成果をたたえ、ここに賞します。平成21年3月29日、滋賀県知事嘉田由紀子。

実は副賞、特別賞で中を少し見てください。懐かしい琵琶湖の写真集です。宇伎多の皆さんによるしくお伝えください。今日はお祭だったのですよね。お祭の神社の神様にお供えください。

グランプリ 「カワセミ自然の会」

賞状、グランプリ、「**人が好き、生き物が好き、みんな大好きで賞**」。カワセミ自然の会様。あなたは第2回淡海の川づくりフォーラムにおいて、川と私たちの共生、川と私たちのいい関係を目指す仲間たちのモデルとなる活動を発表されました。その熱意と成果をたたえ、ここに賞します。平成21年3月29日、滋賀県知事嘉田由紀子。

準グランプリ 「ホタルの学校」

賞状、準グランプリ。「**やさしい笑顔で蛍も人も大事にしま賞**」。ホタルの学校、大津市千丈川様。あなたは第2回淡海の川づくりフォーラムにおいて、川と私たちの共生、川と私たちのいい関係を目指す仲間たちに希望を与える活動を発表されました。その熱意と成果をたたえ、ここに賞します。平成21年3月29日、滋賀県知事嘉田由紀子。

河港協会賞 「犬上川を豊かにする会」

賞状、滋賀県河港協会賞、犬上川を豊かにする会様。あなたは滋賀県主催の第2回淡海の川づくりフォーラムにおいて、日々取り組まれている活動が川と私たちの共生、川と私たちのいい関係をはぐくむ上で大いに貢献するものと認められましたので、賞します。平成21年3月29日、滋賀県河港協会会長上野幸夫。代読です。(拍手)

河港協会賞 「竜王町日野川改修促進協議会」

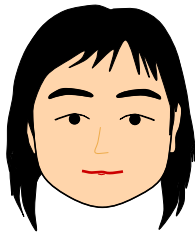
賞状、滋賀県河港協会賞、竜王町日野川改修促進協議会様。あなたは滋賀県主催の第2回淡海の川づくりフォーラムにおいて、日々取り組まれている活動が川と私たちの共生、川と私たちのいい関係において大いに貢献するものと認められましたので、賞します。平成21年3月29日、滋賀県河港協会会長上野幸夫。代読です。(拍手)

6. 公開討論会 選考員のみなさんの横顔

テーブルA

コーディネーター

横山 葵 さん（よこやま あおい） / NPO 法人人と自然とまちづくりと

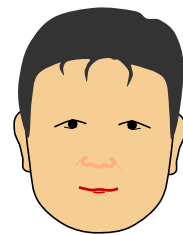


大阪府生まれ。技術士（総合技術管理、都市及び地方計画 / 道路）。人と人とが話し合うといろんな気づきがあり、楽しさと共に、勇気や元気、アイデアや行動など様々な事が生まれる事に感動。“人っていいな”という気持ちから人と人を繋ぐ“場作り活動”を実施中。

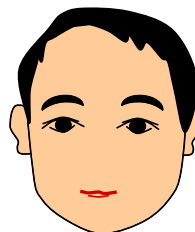
選考員

上田 豪 さん（うえだ たけし） / 寝屋川再生ワークショップ / ねや川水辺クラブ

寝屋川・淀川と人とを結ぶ活動を通じて、川を身近に感じてもらうとともに、今後の川のあり方を市民の皆さん自身に考えてもらう機会になればと思っている。川や水辺を地域づくり・まちづくりと連動する活用を図るとともに、市民・住民自身の取り組みを通じて地域コミュニティ再生を目指していきたい。

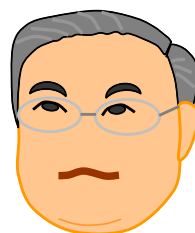


上野 浩文 さん（うえの ひろふみ） / Water Station 琵琶（当時）



グラフィックデザイナー等を経て、水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶へ。座右の銘「体験にまつわる言葉なし」。

中川 元男 さん（なかがわ もとお） / 県流域治水政策室長

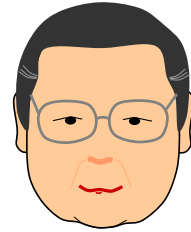


私の生まれた長浜でも、かつては大雨のたびに川があふれていました。そのときは、自警団の人がパトロールして安全かを確認していました。そのような水害に対する地域防災力を取り戻すことを目指しています。

テーブルB

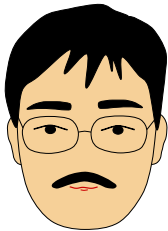
コーディネーター

山道 省三 さん（やまみち しょうぞう） / NPO 法人全国水環境交流会
1949 年 11 月、長崎県生まれ。子どもの頃、川や魚と慣れ親しむ。川や水を中心にした交流活動。著書に『環境市民とまちづくり』（共著、ぎょうせい）、『市民・住民と自治体のパートナーシップ』（共著、ぎょうせい）。



選考員

柳沼 宣裕 さん（やぎぬま のぶひろ） / 淀水防団・桂川スイポーズ



阿武隈川支川安達太良川育ち。土地の記憶をまちづくりや防災に活かす『まちごと防災探検隊』等々の活動を展開中。スイポーズは水坊主（つまりカワガキ）や、水防をする人達（水防子）の意味。「なにが好きって、川遊び。思い出すのは洪水後の校庭がサッカー場 4 枚分の池に川って（変わって）、魚や虫やカエルの遊園地。今でも京都南部の桂川・小畑川のまわりで川遊びをしています！」。

芳賀 裕樹 さん（はが ひろき） / 県立琵琶湖博物館専門学芸員

1966 年生まれ。理学博士。埼玉大学理学部生化学科卒業、名古屋大学大学院理学研究科大気水圏科学専攻博士課程前期修了、同博士課程後期中退。1994 年 4 月より滋賀県教育委員会（仮称）琵琶湖博物館開設準備室勤務を経て 1996 年 4 月より滋賀県立琵琶湖博物館勤務。



中谷 恵剛 さん（なかに けいごう） / 県河港課長



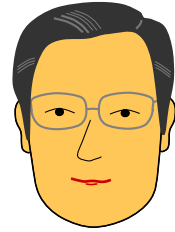
洪水に強い安全な川づくり、だれもが親しめる川づくり、生きものいっぱい、緑がいっぱいの自然豊かな川づくりを進めたいと思っています（琵琶湖も一級河川）。タナゴ、ニゴロブナ、ホンモロコ、メダカ、オニヤンマ、ギンヤンマ、ゲンジボタルなどなどが身近なものになるような水辺の復活を目指して。

テーブルC

コーディネーター

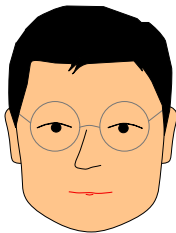
川上 聡 さん(かわかみ あきら) /木津川源流研究所

大阪市生まれ(63才)。中河内のクリークや大和川で遊んだ。89年「名張の川を守る会」(現「川の会・名張」)を結成。水環境保全、上・下流連携による流域経済圏の形成を通じて水源を守るための研究やワークショップ、フィールドワークなどの活動に取り組んでいる。98年から「淀川水系の水質を調べる会」に参加し、淀川～木津川流域の河川の水質・生物調査を実施。現在、NPO 法人全国水環境交流会理事、淀川水系流域委員会委員、川づくり会議みえ代表幹事などを務めている。「淀川ものがたり」「淀川かわあるき」(淀川ガイドブック編集委員会、2007年9月廣済堂出版)の編集に携わった。



選考員

福廣 勝介 さん(ふくひろ しょうすけ) /NPO 法人近畿水の塾



京都大学農学部林学科卒業後、日本住宅公団(住宅都市整備公団を経て現・(独)都市再生機構)に入社、主に集合住宅の屋外の計画設計業務に従事。現職は(財)住宅管理協会関西支部。自然復元系や参加型の仕事に関心がある。三重県伊賀(名張市)に生まれ、爾来、数年間を除き名張住まい。関心事は、自然との付き合い。人との付き合い。地域。時間。信頼型社会の復活。

大橋 正光 さん(おおはし まさみつ) /県流域治水検討委員会(住民会議)

1942年生まれ。平成20年、滋賀県が県民から10名の委員を公募して設置した住民会議の座長として、提言「水害から命を守る滋賀県民宣言」のとりまとめに尽力した。滋賀県における流域治水対策・川の未来づくりに取り組んでいる。



清水 重郎 さん(しみず じゅうろう) /県土木交通部技監



清水 重郎 さん(しみず じゅうろう)

「県の職員はもっと地域に足を運んで、地域の声を聴いて、行政に反映すべきだ」という意見をよく頂きます。『淡海の川づくりフォーラム』が、地域との連携活動に繋がればと期待しています。

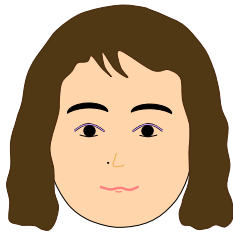
全体選考

横山 葵 さん(よこやま あおい) / NPO 法人人と自然とまちづくりと

山道 省三 さん(やまみち しょうぞう) / NPO 法人全国水環境交流会

川上 聡 さん(かわかみ あきら) / 木津川源流研究所

小坂 育子 さん(こさか いくこ) / 子ども流域文化研究所



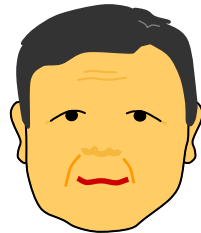
三重県生まれ。

水と文化研究会・子ども流域文化研究所・地元学ネットワーク近畿。「水と人とモノの関わり」にある身近な水環境を通して、それぞれの地域の暮らしにあるいろいろな仕組みを学びながら「ムラの元気応援団」をめざしている。

総合コーディネーター

片寄 俊秀 さん(かたよせ としひで) / 国土交通省 淀川河川レンジャー選定委員

1938 年生まれ。大阪人間科学大学教授。環境芸術家、まちづくりプランナー、花鳥風月のまちづくり研究所・まちづくり道場主などを勝手に名乗るが、要は水辺と下町の同時的再生こそが人類の明日に、ほのかなく希望をもちたらずと信じ行動する「川じじ」。技術士・工学博士。著書『まちづくり道場へようこそ』、『いい川・いい川づくり最前線』(共著)、『いいまちづくりが防災の基本』。



コメンテーター

嘉田 由紀子さん(かだ ゆきこ) / 滋賀県知事



埼玉県生まれ。京都大学農学部卒業、ウィスコンシン大学大学院修士課程(農村社会学)修了、京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。琵琶湖研究所研究員、琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を経て、滋賀県知事に就任。好きな食べ物はふな寿司、ニシンナス、ぜいたく煮。趣味はカラオケ、孫と過ごすこと。特技は手打ちうどん、地図が読める。座右の銘、「まっすぐに、しなやかに」。

【講評とメッセージ：片寄総合コーディネーター】

本当に今日は素晴らしい発表を聞かせていただきました。20年以上も活動を続けている活動もあり、これだけ深い活動をやっているのは全国でも珍しいなと、トップレベルに近いかなと思いました。トップレベルよりもっとすごい活動もありました。

今日参加したけれども残念ながら賞に選ばれなかった方々は、他の川の日ワークショップも一度ご覧ください。今年は9月に全国の川の日ワークショップというのがあります。これがまたすごい内容です。ああ、そんなことまでやれるのか、と思います。新しい民主主義が世の中に根づいていく過程かなという気がします。そういう運動が全国で燎原の火のように広まっています。もう数千、数万というふうなレベルでいろんな運動がありまして、びっくりしますよ。

それから実を言いますと私は何でも反対の片寄と言われて、あいつは偏っていると言われていました。違います。僕は肩寄せ合って生きていこうというやさしい人なんです。こういう訴えが嫌われた時代もあるんですけど、最近私への風当たりもちょっと変わってきてまして、淀川河川レンジャーの推薦委員などにも選ばれたりしています。一緒に取り組んでいかないと。最後の仕事は行政に力を貸してもらわないと実現しないことがありますしね。だから、反対ばかりしたって何にも変わらないわけで、**やっぱり一緒に上手に作っていくことが必要**です。

例えばあの笑顔で、ですね。さっきのホテルの笑顔には参ったな。あれはもう彼女の笑顔に魅せられたという感じがします。ホテルか人間かというのは、これはいつも言われる議論なんです。私も長崎に26年ほど住んでいましてね。長崎大水害、1982年、1時間に189mm。1時間にそれだけ降ったんです。あれはすごかったです。ずっと降ってね。普通だったら終わるんですよ。終わらない。傘もしなるんですね。これで300人近い方がお亡くなりになったんですけど、亡くなったのは大体土砂崩れ、土石流、斜面崩壊など土砂災害で亡くなられていますね。水では人間はあまり死にません。上へ逃げたら助かるんです。

だから、何としても命を守るといふ、防災の基本はそこだと思います。命さえ守れば何とかなるといふ段階からが1で、そして、あと何とかするというのがそれからの仕事です。だから、**絶対に人が死なない仕組み**をつくれれば、これでまず防災になります。だから、どんなことがあっても死なないと。

ところが最近、災害に弱い人間が増えまして、私は学校の先生もしていますが、みんな夏はサンダルみたいな履物を履いてぺちゃぺちゃ歩いていますね。それからハイヒールの子も多くなりました。(いざ水害となると)これでは危ない。水害のときや地震のとき、おろおろして何にもできなくなります。これは災害の一番問題です。災害に弱い人が多くなり過ぎて、逆に災害に強い人が減っています。

これはやっぱりフィールドワーク、野外活動などで、**子供のときに備える力を養う**のが良いと思います。私も長崎水害のときに、「役に立たない人がたくさんいるな」と思っ

ていたのですが、反対に役に立つ人も結構いるなとも思いました。役に立つ人はやっぱりキャンプとか水遊びとかいろんなことで子供のときから遊んでいた人が多いような気がします。

ます。**年寄り**はみんな役に立つんです(笑)。**スコップ**で土を運ぶときでも**腰の入れ方が違う**なと思います。若い人だといろいろいますけど、ぼーんと蹴り飛ばしたら飛んで行くような人がたくさん育っていますから、これから年寄りの出番です。

きょうも年配の人が多くですね。我々の世代は子供と一緒に川で遊んだ、子供時代に川でいっぱい遊んだんです、海で遊んだんです、山で遊んだんです。ところが今の子供の親は、「よい子は川で遊ばない」と言われてきました。このキャッチフレーズはびっくりしましたね。これで育った人が今は親になっているわけですから、自分の子供が川に行くのが不安で、「行ったらいかん」という人が多いのです。だから、川へ子どもたちをガツと入れられるのは、**中年以上の天然記念物**みたいな我々の世代ですから、これからそういった点を一緒に取り組んでいきましょう。

それにしても滋賀県はすごい。川が好きな人がこんなにたくさんおられる。お金にもならない話にこれだけ一生懸命に取り組んでいる。関西人は金にうるさいですけども、賞品はあの本1冊です。すごいな。大勢、川の好きな人がたくさん集まって良いことだなと思います。世間は皆さんをどう言っているか知っていますか。「**変った人**」だなと(笑)。ということで、今日は皆さんおつかれさまでした。(拍手)

【閉会挨拶：嘉田知事】

本当に今朝から一日“川を思い、そして人を思う、生き物を思う”人たちがこんなにたくさんおられて、そしてそれぞれの思いを交流し合った一日でした。ついに、**滋賀でもこういうワークショップができました。**そして、どうでしょうか、今日は先ほどの審査員の皆さん全国の川の日ワークショップで丁々発止、いつもきついことを言っておられる皆さんがかなり前向きな発言をしてくださいます、力をいただいたなと思っております。

改めて皆さん、今日ここから見える琵琶湖、比叡山、1200年前伝教大師がああ比叡のお山に人々の苦しみと、そして病を救うという薬師のつばを手を持った薬師如来をああ比叡のお山に彫られて、そのときに琵琶湖は何かと言ったら**天台薬師の池**です。天台薬師の池で琵琶湖は比叡山とともに意味づけをされ、だから琵琶湖周辺には比叡山とお友達のお寺がたくさんあります。長命寺、そして伊崎の寺、何よりも竹生島の真ん中には宝蔵寺、そして神社があります。実はこの琵琶湖周辺でおもしろいのは、仏さんだけではなくて神さんが一緒です。実は仏さんをお守りしているのは神さんです。比叡山の延暦寺に入るときに、根本中堂、右と左に結界があります。結界の1つはそれこそ伝教大師が生まれ育ったところ、ここから見えます下阪本の山王神社の神さんです。もう一つは諸国のよろずの神さんです。産土神ですね。そうやって仏さんをお守りする神さんがあって、まさに**琵琶湖は神と仏が住まう湖**でございます。

今日、「うきたの会」のみなさんがグランプリを得られました。皆さんのあのお話は、地域で今しっかり受け継がれていますが、滋賀県内の**村という村には水の神さんが生きておられる。**そしてその神さんの思いをもって、いざというときの**水害にも自分たちで力を込めて命を守ってきた。**そして、いざというときの逃げる場所はお寺なんですね。**お寺が何で周りの土地よりも高い場所にあるのか。**仏様を高くお祭りしていますが、あれはいざというときのためなのです。皆さんの地域のお寺を見てください。その地域で水害を受けても、最後お寺の庫裏だけは水に浸からないようになっていきます。仏さんがつからないようになっていきます。そういう形で**先人の思いを受け継ぎ**ながら、私たちはこの美しい琵琶湖を、そして琵琶湖に流れ込む118本の一級河川、その上流には500本を超える河川をあずかっています。その川の一本ずつに対するそれぞれ皆さんの思いと活動を発表の中で**生き生きと語って**いただきました。もう来年はどういう発表をしようかなと、きっと皆さん、心の中ではご準備されているのではないのでしょうか。

今日のこのワークショップですけれども、結果は結果でグランプリ、準グランプリです。けれども、もう見ていただきましたように、**審査ではありません。**選考、そしてその選考員の皆さんがどう評価をするか、あるいは意見を言うか、そこが**お互いの学びの場**です。結果ではなくてプロセスを共有する中で、「ああ、うちもああいうことを次はできるな」と**お互いに仕組みなり、あるいは知恵を活かし合う**ような、そういう場に

していただけたらと思います。

来年以降もしっかりと事務局のほうも支えさせていただきますので、どうか皆さんそれぞれのところで仲間を集めて、この川の日ワークショップ、来年以降も盛りたてていただきたいと思います。

何よりも遠方から、東京から大阪からお越しいただきました川の仲間でございます。みなさん応援をしてくださいますので、ぜひ外の力を私たちの地域の中に入れていただいて、そしてお互いに一旦遠くなってしまった川を近いものに、そしていい川づくり、**行政住民ともにまた次の一歩を**踏み出せたらと思っています。

今日は、本当に皆さんありがとうございました。**また来年お会いしましょう。**

(拍手)

団体名：	野洲市里川づくり委員会
発表内容：	<p>市内で川づくりをしている団体や自治会10で「野洲市里川づくり委員会」を結成しフォーラムなどを開催し川づくりをひろげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな大山川の親水ゾーンで遊ぼうと様々な活動 - 水辺の会 ・二十年以上河川愛護活動を続けた風情ある川を四季折々に楽しむ - 富波乙自治会 ・あやめ浜まつり - びわ湖の会 ・ホテルが住める川づくりをして、絶滅したホテルの復活に取り組む - 堤・六条・西河原・野田自治会、ホテルを復活させる会 ・野洲市の多くの川が合流して琵琶湖に注ぐ家棟川河口部で屋形船を運航して川の自然の良さとともにごみの実態も見てもらい夫々の川をきれいにとキャンペーンする - 家棟川観光船 ・野洲川についての講演会や思い出文集、野洲川まつり、手づくりの自然が残る北流跡内湖の清掃や観察会 - でんくうの会
活動中の川や水辺の名称：	<p>大山川、中ノ池川、自治会内の川、家棟川、野洲川、あやめ浜</p> <p>滋賀県野洲市</p>
活動内容：	野洲市環境基本計画の - 「おらが川」人が親しめるきれいな川づくり - の実践

団体名：	防災エキスパート
発表内容：	<ul style="list-style-type: none"> ・全国組織で防災に従事した経験者の集まりとして活動しています。 ・本人が住んでいる場所。私の場合は河川に関係している出来事が中心ですが、専門性が必要とされる時は各地へ出かけます。(組織づくりの大切さ) ・情報の連絡には携帯電話の写真撮影が大変便利です。(情報伝達手段の充実と訓練の必要性について) ・集中豪雨等は時間を選びませんから、勤務内容と天気予報の信頼度のウエイトの負荷のしかた。職場での理解づくりについて。(勤務に出かけるか、家で待機するか朝の判断について)
活動中の川や水辺の名称：	<p>大戸川及び支川隼人川等</p> <p>滋賀県甲賀市牧・黄瀬・宮町付近</p>
活動内容：	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨状況の報告 ・常日頃から感じる危険箇所の報告 ・防災訓練に参加(実施訓練及びレベルアップのための講習会に参加)

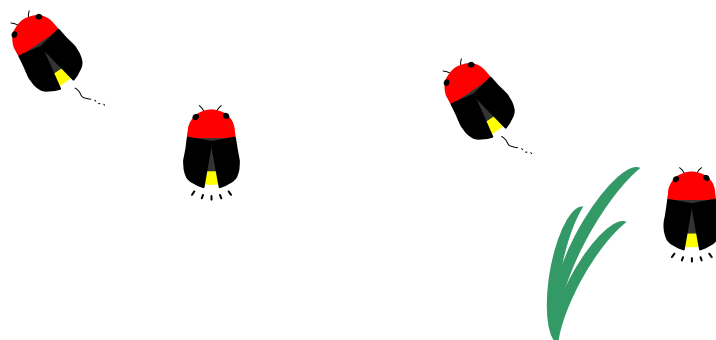
団体名：	おおつ環境フォーラム；子どもが遊べる川づくりプロジェクト
発表内容：	<p>子どもが遊べる川づくり活動～子どもたちの歓声に未来をおも～</p> <p>私たち「子どもが遊べる川づくりP」は・・・子供達が「川で遊び・川に親しみ・川を学ぶ」ことが出来る川づくりを目指して活動しています。</p> <p>学校等の支援事業：大津市内の小学校を中心に総合的学習の支援、特に「地域の河川に生息する生き物と水質の関係」について考える体験学習等を支援しています。</p> <p>子どもたちが、歓声を上げながら川に入って水の冷たさを感じ、また生き物に手を触れて生命の大切さを思い、また水の汚れと生き物の生活との関係についても学んで、川を身近な存在として考えるようになってくれればと願って、活動を続けています。</p> <p>三田川生きものマップづくり：子どもたちが地域の河川で「遊び・親しみ・学ぶ」ための参考資料になればと考え、晴嵐学区を流れる三田川をモデルとして生き物(水生昆虫、水生動物、魚、ホタル、植物)調査を続け、資料づくりをしています。</p>
活動中の川や水辺の名称：	<p>一級河川；三田川（真野川、柳川、安曇川上流、相模川、吾妻川、藤尾川等）</p> <p>主に、滋賀県大津市三田川上流～河口付近</p>
活動内容：	小学生や中学生の総合的学習支援、会員を中心とした水生生物、植物調査及び研修と生き物マップづくり、イベントの参加等

団体名：	琵琶湖河川レンジャー
発表内容：	<p>「川に関心をもってもらおう」ということをテーマに、生きものとの触れ合いを入口とした、各地での観察会の支援などを行っている。また、琵琶湖河川レンジャー独自の取り組みとしては、川に興味をもつ、生きものに興味をもつ、川について学ぶことができるようにプログラムした「バーチャル魚つかみ」を実施している。</p> <p>そのような活動の一方で随時、「川との関わり」や「川への関心」を把握するため、参加者や協力者へのアンケートやヒアリングを行っている。そして、それを次回の取り組みに反映し、「住民の声」として行政に届けられるよう努めている。</p>
活動中の川や水辺の名称：	<p>琵琶湖および周辺河川</p> <p>滋賀県全域</p>
活動内容：	住民と河川行政のつなぎ役、各地観察会の支援、バーチャル魚つかみ等

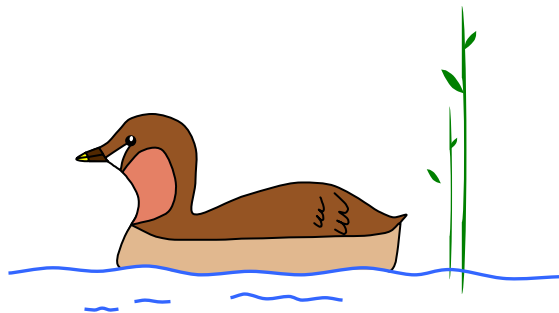
団体名：	竜王町日野川改修促進協議会
発表内容：	<p>日野川中流部における抜本的な改修を早期に実現するため平成9年1月より発足しております。中流部の住民は今後も洪水に対する不安が継続することから当地域の抜本改修が早く促進と民意による促進を待っております。</p> <p>竜王町日野川沿川8集落の関係者により、日野川中部における当地域の抜本改修が1日でも早く促進できるよう、民意の改修促進の組織として県ならびに町と連携して、地域の住民への事業協力や理解により、事業促進の先導的役割を果たすことを目指して、竜王町日野川下流地より山面、横関、西川、弓削、庄、林、川守、岩井地先までの間の住民上げて改修並びに促進に歩みを強く望んでおります。</p>
活動中の川や水辺の名称：	<p>日野川</p> <p>滋賀県蒲生郡竜王町弓削付近</p>
活動内容：	下流部工事実施状況現地研修会。東京陳情、農林水産大臣、国土交通省事務次官、改修促進要望書提出。竜王町長と同行陳情。

団体名：	NPO法人 蒲生野考現倶楽部
発表内容：	<p>毎年、佐久良川で「かいどり大作戦」(魚つかみ・川調査)を行っている。「かいどり」を通して子どもたちを水辺に誘い、川の楽しさや川の多面的な機能、命を育む豊かな川のあり方等について認識を深めることを目的としており、午前に魚つかみ(かいどり)、午後は、魚の種類調べ・水質検査・透明度調べ・植物観察・川の石調べ・昔の川遊びなどの環境学習を行っている。今年で18年目を迎え、参加者は年々増加して150人強の人が参加する。生き物を手で捕まえる感触、投網の実演、広い空間での水遊び、やがて子どもたちの水しぶきは歓声に変わる。川への愛着心はこうした中から生まれ、この川を自分の水辺として語り始める。佐久良川は、子ども達にとってふるさとの川になりつつある。</p>
活動中の川や水辺の名称：	<p>日野川支流佐久良川</p> <p>滋賀県東近江市蒲生支所付近</p>
活動内容：	環境教育、水辺の保全

団体名：	カワセミ自然の会
発表内容：	<p>身近な自然の不思議・おもしろさをできるだけ多くの人に伝えたいと、1991年から湖西の里山で「自然観察会」を開催しています。真野川でカワセミに出会い、「こんな美しい鳥が身近なところにすんでいるんだ」ということに感動し、カワセミがいつまでも身近なところにすんでいてくれることを願って会の名前としました。</p> <p>会を始めて1年程したときに「真野川河川改修」の計画があることを知り、「私たちに何かできることはないだろうか」とスタッフで話し合いを重ね、「真野川の良さをできるだけ多くの人に知ってもらいたい」と「真野川自然探検（河口から源流部まで6回に分けての自然探検）」を開催することにしました。たくさんの方々に参加していただき、記録集（「真野川自然探検」）にもまとめることができ、真野川のすばらしさを多くの方々知ってもらうことができました。4年前からは、「真野川の中を歩いてさかのぼろう」というシリーズ観察会を開催しています。川の生きものを見つけたり、泳いだり、流れたり...と、アクティブに活動しています。</p> <p>「川の良さを知り、愛着を持つ」ことで、その川（その場所）を大切にしたいと思う気持ちが生まれてくるだろうと私たちは考えています。なかなか川で遊べなくなっている「今の子どもたち」に「川の良さ・すばらしさ」をこれからも伝えていきたいと考えています。</p> <p>私たちは、「真野川川づくり会議」にも参加し、真野川の未来像を話し合ってきました。「真野川周辺の住民のみなさん」にとっても、「真野川が大すきな子どもたち」にとっても、「川にすむ多くの生きものたち」にとっても良い改修工事が行われることを願っています。今回は、そんな活動を紹介し、これからの「川と私たちのいい関係」について、みなさんと一緒に考えることができればと思っています。</p>
活動中の川や水辺の名称：	真野川など湖西を流れる川 滋賀県大津市
活動内容：	発表内容に同じ



団体名：	NPO法人瀬田川リバプレ隊
発表内容：	<p>この活動のきっかけは</p> <p>* 地元小学校5年生の総合学習でこの河川に散乱するゴミの実態調査を実施、汚れた川を体験した子供達からこれ以上汚さない事を確認、併せて住民の人達へも協力要請のメッセージがあり、その声に背中を押されて滋賀県が推進している淡海エコフオスター活動に応募、2年半取り組んで参りました。</p> <p>高橋川が開かれた場に</p> <p>* 当初はリバプレ隊員での清掃活動でしたが、地元の人達も参加、今では毎回の17～18名ほどの参加者があり、その半数は地元からの人達で毎月25日に実施、ポイ捨てゴミの回収だけでなく、草刈機による除草作業も行います。それも事前に除草作業を実施、25日当日には枯れ草の袋詰をすることによって効率よく周辺が整備されるようになりました。この活動地域の自治会へも紹介していますが、むしろ自主的に駆け付けてくれる人達の口コミで増えていった経緯があります。</p> <p>河川行政との連携</p> <p>* 回収されたゴミ袋は毎回40～50個にもなりますが、大津環境美化センターへの連絡で翌日には処理をして頂いています。この活動継続の原動力の一つにもなっています。一方、草刈機を使用の河川敷での作業安全面に不備があります。またポイ捨ては辞めての啓発看板設置等対応も行政担当課へ依頼をしていますがガードが堅く、なかなか実現しないのが我々の今の課題です。これからも協力要請を続けて安全作業、啓発活動で子供達の要請であった綺麗な河川にして行きたいと考えて居ります。</p> <p>その他の取組み</p> <p>* この活動実施後に迅速な広報活動と近隣の瀬田工業高校化学科の生徒さんによる河川の水質検査もこの活動に参加して頂いている事付記させていただきます。</p>
活動中の川や水辺の名称：	高橋川
活動内容：	淡海エコフオスター活動 高橋川の河川清掃



団体名：	うきた会
発表内容：	<p>A 八田川の洪水歴と体験を語り合い水防への連携を強める。 寛文洪水で宇伎多神社が流失のとき沖田の住民は神霊を他社に預けその宮守を輪番で勤めた。 沖田絵屏風の八田川の竹の流しかけの絵や、県の八田川河道計画案の図を見て洪水体験と改修工事完成までの地域の水防活動について語り合う。</p> <p>B 竹の流しを再現し伝承する。昭和28年台風で右岸家屋と田が流失したとき左岸の沖田住民は初期に太鼓で出動し竹の流しをかけて堤防を守った。</p> <p>C 八田川堤防の現状の見回り活動をする。堤防兩岸の水落とし付近や堤防の土盛りに傷みがないか、堤防の中に流木等がないかを巡視する。</p> <p>D 水防倉庫の備品確認等をする。 土嚢、流しつくり等の水防備品、現場への運び方の確認をする。 掃除、ペンキ塗りで水防の心構えを新たにす。</p>
活動中の川や水辺の名称：	八田川 滋賀県高島市八田川付近
活動内容：	洪水歴と体験を語り合っすめる地域の水防活動

団体名：	住民会議作業部会 + ボランティア
発表内容：	<p>流域治水検討委員会(住民会議)の平成20年3月から平成21年3月までの約1年間にわたる議論について、滋賀県民宣言のたたき台の作成作業を担当した作業部会員の立場から、滋賀県民宣言に至るまでの経過や、滋賀県民宣言に込めた思いを発表します。</p> <p>流域治水検討委員会(住民会議)は、10名の公募委員により構成されており、流域治水対策を推進するための「自助・共助においての県民の役割」と「県民が公助に期待する事柄」</p> <p>流域治水への県民への普及と協働で取り組む方策</p> <p>について、滋賀県知事より諮問され、平成20年12月には の諮問内容に答えるべく、「水害から命を守る地域づくり～滋賀県民宣言」として提言しました。今後も活動を継続し、水害に強い地域づくりだけではなく、安全で豊かな川づくり・地域づくりを行政とも協力しながら、進めていきたいと思っています。</p>
活動中の川や水辺の名称：	琵琶湖流域
活動内容：	滋賀県民宣言の発信、水害に強い地域づくり、県の本気度のチェック

団体名：	犬上川を豊かにする会
発表内容：	犬上川を豊かにする会近未来部会では、犬上川の河川改修において、沿川住民の選択肢を増やし、より豊かな犬上川の河川改修を目指して、現地見学、全国事例の勉強会、自治会との座談会などの活動を2003年から行っています。
活動中の川や水辺の名称：	犬上川 滋賀県彦根市下流域付近
活動内容：	

団体名：	特定非営利活動法人 いきいきおうみ プロジェクトB（防災）
発表内容：	<p>平成17年10月の米原市合併を契機に地域自治の継続・発展と地域協働型社会の確立を目指して『特定非営利活動法人いきいきおうみ』を立ち上げ、地域自治の最小単位の自治会支援を薄れつつある人と人の絆づくりを合言葉に活動を行っています。</p> <p>こうした中で、自治会の防災・安全・安心づくりとして絆マップの作成に取り組んでいます。さらに、防災対策で一番重要と言われている自助・共助を中心とした災害時初期救助システムのマニュアル化に専門スタッフ『プロジェクトB』を結成して米原市防災安全課、米原市社会福祉協議会と連携しながら作成を進め、これまでの災害時マニュアルにはない、災害発生から自助・共助・公助へと一貫した市民レベルでの総合防災マニュアルを作成して、自治会での自主防災組織に呼びかけ、より完全な防災対策の構築に貢献したいと頑張っています。</p>
活動中の川や水辺の名称：	天野川 滋賀県米原市旧近江町付近
活動内容：	地域防災の活動

団体名：	琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」
発表内容：	<p>琵琶湖博物館を拠点とした地域での活動を通じて、小・中学生や家族単位での参加者を中心とした地域住民に対して、琵琶湖水系の自然を体感し、水の恵みを感じ、環境への意識を高められるような体験学習の機会を提供することを目指しています。</p> <p>具体的に、プランクトンや水草、水鳥といった水生生物の調査・観察、水草などを利用したモノづくり体験などを季節ごとに実施し、人と湖、また人と人とのつながりを深めていける活動を行っています。</p>
活動中の川や水辺の名称：	琵琶湖および流域河川 滋賀県草津市下物付近
活動内容：	体験型プログラムの企画および実施

団体名：	NPO法人En（えん）
発表内容：	<p>2007年、久御山町立御牧小学校4年生の子どもたちと、過去に地域で起こった水害をテーマに活動しました。子どもたち一人ひとりが、水害を自分に関わるコトとして捉え、「水害から自分で生き抜く術・力・心」を学び、伝えることを目的としています。そして、伝えるツールとしては、地域に残る水害の「記憶」を、カルタで「記録」することにしました。作成された37組の「水害カルタ」には、活動した子どもたちの声が“めいいっぱい”“そのまま”込められています。</p> <p>今回はそのカルタ紹介から、地域で起こった水害に学び、自身の足元の取り組みから広く「防災」への考えを深め、子どもから地域の人々を巻き込んだ、世代を越える活動の輪を広げたいと考えています。</p>
活動中の川や水辺の名称：	宇治川（淀川水系） 京都府久御山町 宇治川久御山排水機場付近
活動内容：	地域の防災活動

団体名：	野洲川に親しむ会
発表内容：	<p>まちの真ん中を野洲川が流れる湖南市。「まちづくり」に川が存在が無視できません。「まちづくり」イコール「川づくり」との考えの基に活動をしています。川の魅力を生かすためにはどうすれば良いか？</p> <p>失われた川への関心を生活の場に取り戻すために、</p> <p>”いま川の現状を知ることが必要”と考え「川をもっと身近に！」を合い言葉に「野洲川ウォーク」、「川遊び」、「環境保全」、「古老と話そう！」（川周辺の歴史を学ぶ活動）、「会報」の発行などを自助、共助のもとに取り組んでいます。</p>
活動中の川や水辺の名称：	野洲川 湖南市付近（中流域）
活動内容：	川に親しむ活動（ウォーク、川遊び）、環境保存活動（水質調査、草刈り）、川づくり（提言）、川周辺の歴史を学ぶ（古老と話そう！）、会報の発行

団体名：	河川レンジャー
発表内容：	琵琶湖及びその周辺において、地域の方々との信頼関係を築き、活かして住民と行政をつなぐコーディネーターとして活動している「河川レンジャー」の紹介。 具体的な活動例 野洲川河川敷の間伐材を有効に利用するため、近隣小学校と河川管理者の連携をコーディネート 過去の川の災害体験を子どもに伝える、親子を対象とした防災プログラムで災害の備えなどの気付きを促す 川周辺の歴史や魚を通して地域住民と川を近づけるためのきっかけづくり 瀬田川の散策路の利用者の声を集め、有効利用を話すための場作り 魚の観察会などの場で川や魚に対する住民意識の把握 その他、ニーズに合った場作りやネットワークの紹介など
活動中の川や水辺の名称：	野洲川・瀬田川・草津川など 滋賀県野洲市・大津市・草津市・高島市・彦根市付近
活動内容：	「住民と行政の協働による河川づくり」に向けたコーディネート（つなぎ役）

団体名：	ホテルの学校～大津市千丈川～
発表内容：	平成元年に滋賀県下全域ではじまった「ホテルダス」に参加し、近くの千丈川のホテルの生息調査を20年間観察。ホテルを調べはじめて2年目に、護岸工事があり、ホテルが激減し、県の土木にかけあう。工事を要望する自治会と「ホテルと人とどっちが大事か」論争にまで発展するが、話し合いを重ねるごとに理解しあい、護岸や浚渫が毎年行われる中で生きものに配慮した工事を実施してもらう。（毎年、県・業者・自治会・保存会の話し合いや生きものの移動も）一方で、地域の子どものホテルを守りたいという願いを知り、「ホテルの学校」を7年前に開校、川の中の生きもの調査やゴミ啓発ポスターの設置などの活動をし、ホテルの夕べや文化祭では、毎年、地域の人たち約500人が参加。
活動中の川や水辺の名称：	千丈川 大津市千町
活動内容：	～みんなで守るホテルと川～

団体名：	びわ湖自然環境ネットワーク
発表内容：	<p>FLB びわ湖自然環境ネットワークは 1990 年に設立し、琵琶湖と県内の自然環境問題に取り組んできましたが、2003 年からは、琵琶湖岸に「びわ湖よしよしプロジェクト」と名づけて、柴と間伐材と竹を使用した粗朶消波工によるヨシの植栽と、「魚ののぼれる川づくり」として琵琶湖に流入する一級河川に木製の箱型魚道を開発して設置、良好な自然回復をめざして実験を重ねてきました。試行錯誤の中で、ようやくヨシ帯が湖岸に根付き生育するようになり、現在、琵琶湖の 4 ヶ所で、行政との協働も含めて取り組んでいます。一方の魚道も、2007 年には鮎が大量に遡上するなど成果が出るようになりました。</p> <p>また、新たな取り組みとしては、昔から伝統ある石組みの川の再生をめざして「石組みの川復活プロジェクト」を業者との協働ですすめています。</p>
活動中の川や水辺の名称：	大津市中浜の琵琶湖岸 大津市中浜の喜撰川 大津市八屋戸の大道川
活動内容：	自然素材で琵琶湖岸のヨシ帯再生 木製箱型魚道の開発 石組河川の復活

団体名：	東近江建設管理部
発表内容：	<p>日野川は過去に幾度も水害をもたらしていますが、近年は幸いにも大きな雨がなく、水害への意識もうすれつつあります。このため、日野川の沿川で生活されている方々に、過去の水害を知り、日頃の備えについて考えて頂くきっかけとなるよう、「日野川水害マップ」をつくりました。マップには、様々な文献から収集したバックデータをもとに水害発生箇所や、写真、体験談など水害発生時の様子や日頃から行われている水害への備えなどを盛り込んでいます。</p>
活動中の川や水辺の名称：	日野川
活動内容：	水害履歴・経験の聞き取り調査、地図化。